

第 4 回四万十市立小中学校再編検討委員会における主な意見等

平成 29 年 3 月 30 日
第 5 回 検 討 委 員 会

〔主な質問と回答〕

- 今検討している中学校の配置計画案に取り組んだ場合、実現する年度はいつになるか。
⇒ 生徒等の事前交流、施設改修などを考えると最短で平成 33 年 4 月と想定している。
- 仮に中村中学校、中村西中学校の 2 校に他の中学校が統合した場合、増築などは必要ないか。 ⇒ 必要ない。
- 答申内容等について地域や P T A に対してどのように説明していくか。 ⇒ 答申を基に教育委員会で再編計画を策定していくことになる。その過程において地域や P T A に対して説明を行いながらご意見をいただきたいと考えている。

〔主な意見〕

- いじめ問題など心配される部分もあるので、理想だけでなく現実を直視して検討しなければならない。
- この検討会では、ある程度各地域の意見を想定しながらも、学校再編の全体的な「望ましい形」について検討しないと前に進めない。
- 緊急性のある極小規模校は、早急に取り組む必要がある。その場合、2 回の統合を経験してしまう学校があってもやむを得ないと思う。
- 再編後の通学は、基本的にスクールバスでの送迎が必要である。
- 再編後は、児童数に応じた学童保育施設の規模も考慮してほしい。
- 再編後は、通学距離が遠くなるので、通学路の安全確保対策が必要である。
- 中学校の再編に関しては、複式解消など緊急を要する学校があることやクラブ活動に対するニーズの状況などから、西土佐中も含めて 3 校区でいいと思う。
- 子どもたちに 2 回統合を経験させないことを考えると、中学校から先に取り組んで、そのあと、小学校に取り組むということになると思う。

【確認事項】

◎配置計画は、中学校については3校（西土佐中含む）、小学校については5校（西土佐小含む）が望ましい。

◎再編は、中学校から先行して取り組む。

◎いじめ問題等への対応、その他配慮すべき事項については、附帯意見として答申に盛り込む。

◎再編時期および附帯意見については、次回の会議で審議する。